

私立大学研究ブランディング事業

成果報告書

学校法人番号	231042	学校法人名	清光学園		
大学名	岡崎女子短期大学				
事業名	「子ども好適空間」研究拠点整備事業				
申請タイプ	タイプ A	支援期間	3年	収容定員	685人
参画組織	幼児教育学科第一部・第三部 現代ビジネス学科 地域協働推進センター 親と子どもの発達センター 研究推進センター				
事業概要	<p>本学幼児教育学科で培われてきた保育、幼児教育に対する知見の蓄積と地域に対する子育て支援、現代ビジネス学科において実践しているユニバーサルデザイン、住環境デザインの教育・研究、及び産学連携事業を学内横断的に接続し、子どもが安全に活動し、子どもにとって居心地が良く夢中になれる空間を研究する「子ども好適空間研究所」を本学独自のブランドとして確立し、研究成果を地域のこども園、幼稚園、保育所、企業（ハウスメーカー、デベロッパー、工務店等）、子育て世帯等に還元する。</p>				
事業目的	<p>本事業は、本学の幼児教育学科の保育、教育研究と現代ビジネス学科のデザイン、産学連携研究を領域横断的に結合して「子ども好適空間研究所（愛称：hygge ラボ※）」を設立し、「子ども好適空間デザイン拠点」として研究成果を地域に還元し、短期大学のブランド価値確立を目的とするものである。 ※hygge とは：デンマーク語で「居心地の良い」「快適な」等の意味。</p> <p>[社会的ニーズ]</p> <p>厚生労働省の「平成 23 年度人口動態統計」では子どもの死亡原因の 0 歳における第 3 位、1～19 歳における第 1 位が「不慮の事故」である。さらにその詳細を見ると 0～4 歳においては交通事故や自然災害を除けば、窒息、溺死、転倒転落、中毒、火災など家庭や身近な場所で発生する事故による傷害が多い。一方で子どもが生活する住環境や、幼稚園、保育園などの保育、教育環境に、子ども特有の行動特性、心理特性を考慮した安全な環境をデザインしようとする事例は少ない。そのために子どもの事故を防ぎ、安全で安心できる環境を用意するためには、保育、教育の現場で勤務する人材と、家庭で育児に従事する家族に対する「子どものための空間デザイン」思考の浸透、普及が不可欠である。</p> <p>[研究ニーズ]</p> <p>1990 年代後半より、日本の産業界において多様な世代、身体的特徴に配慮した製品、環境、サービスをデザインする「ユニバーサル・デザイン」の概念が浸透し、2000 年代後半には特に子どもの安全・安心や、子どもの産み育てやすさに配慮した「キッズ・デザイン」の考え方も提唱されるようになった。しかし、子どもの住環境を設計、施工するハウスメーカーやデベロッパー、工務店等が子どもに関する具体的な知見やデータを保有していることは稀であり、住環境において「キッズ・デザイン」の概念に沿った安全・安心な環境デザインが実現されている事例は少ない。これは保育園、幼稚園においても特に 2000 年</p>				

事業目的

代以前に設計・施工された事例では同様であり、子どもの安全・安心を実現する環境デザインの研究と、その成果を社会に還元する取り組みが求められている。

また、日本における思春期の若者の「自己肯定感」の低さは社会問題となっているが、自己肯定感の形成と幼児期の体験との関係が指摘されていることや、音、光、色といった外的刺激の量や質の不適切さと発達障がい児の「困り感」やその場にふさわしくないと受け取られてしまう動き等との関連を指摘する研究もみられることから、子どもが生活する空間は、①安全性を確保すること、②子どもが居心地の好さを感じることが出来ること、③その居心地の好さを拠り所に安心して自己発揮ができ、夢中になって活動できること、の3条件を同時保証する空間作りについて、今後研究ニーズが高まることが予測される。

私立大学研究ブランディング事業

成果報告書

学校法人番号	231042	学校法人名	清光学園
大学名	岡崎女子短期大学		
事業名	「子ども好適空間」研究拠点整備事業		
事業成果	<p>(研究活動)</p> <p>本事業は、学長のリーダーシップの下、研究ブランディング事業推進委員会メンバーを中心として、全学的に研究に取り組んでいる。研究プロジェクトとして、推進委員会での内容を決定した「必須研究」と学内公募の「課題研究」をおき、プロジェクトごとに研究を進めるだけでなく、各研究間のつながりや本事業の中での位置づけについて、適時検討を行った。</p> <p>必須研究は、以下6プロジェクトで進めており、各研究の成果は下記のとおりである。</p> <p>①「医療空間、商空間における子ども好適空間の研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原著論文79編の環境因子分類を行い、子どもの医療環境に影響を与える因子を抽出 ・医療機関の環境整備に貢献できる医療事務職員を養成するための教育プログラムの構築 <p>②「屋外空間における好適空間と保育の質の研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外の遊び環境を客観的に評価する「屋外スケール」の作成 ・子ども対象の「冒険遊び場」を実施し、「屋外スケール」の測定 <p>③「子ども好適空間事例調査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外3000点以上の画像の蓄積 ・「子ども好適空間」を構成する要素の確立 <ol style="list-style-type: none"> 1) 大空間と小空間の対比 2) 遊べる空間と寛げる空間の用意 3) 子どもの嗜好の違いに配慮した多様な空間 4) 温かみのある色彩、または照明の使用 5) 包まれ感がありつつ、他者と隔絶しない空間 6) 使用者自身により改善できる空間 <p>④「子どもの音環境の研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の子どもを取り巻く音環境について先行研究をレビュー ・付属幼稚園における音環境の調査と問題点の抽出 ・音環境改善のための素材と設置場所の検討 <p>⑤「定点観測による保育者の空間デザイン意識の研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室、教室などの季節ごとの画像の蓄積 <p>⑥「保育現場における危険事例とよりよい保育環境に関わるアンケート調査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全な空間」「居心地の好い空間」「子どもの冒険心をかきたて夢中になって遊べる空間」の要素を取り入れた「子ども空間安全チェックリスト」の発行・配布 <p>これらの成果公表のための学術雑誌として「子ども好適空間研究」誌を創刊し、平成31年3月に第1号、令和2年3月に第2号を発行した。</p>		

<p style="text-align: center;">事業成果</p>	<p>また、本事業では「子ども好適空間」に関わる研究成果を地域に還元することを目的の1つとしている。令和元年度より愛知県岡崎市建築部建築課、こども部保育課と協働し、「岡崎市豊富保育園」改築において、各プロジェクトの研究の知見を活かした改築アドバイスをを行っている。</p> <p>さらに、事業の成果の一つとして「子ども空間デザイン教育と、効果測定法開発」を掲げており、これを目的として、令和元年度から現代ビジネス学科の教養科目として「好適空間論」を開講している。</p> <p>(広報活動)</p> <p>事業の広報活動については、「研究ブランディング事業広報委員会」が企画・実施をしている。広報制作については、本事業のブランディング戦略の順序をもとに、以下の通り行った(抜粋)。</p> <p>平成30年 1月 「子ども好適空間研究拠点整備事業」特設Webサイト開設・公開 私立大学研究ブランディング事業採択告知用フライヤー配布</p> <p>平成30年 3月 「子ども好適空間研究拠点整備事業」キックオフミニシンポジウム開催 「子ども好適空間研究拠点整備事業」概要告知リーフレット配布</p> <p>平成30年 5月 PRボトルウォーター配布</p> <p>平成30年 6月 オープンキャンパスでのブース設置</p> <p>平成30年 7月 同窓会イベント「おかえりなさい岡女・岡短へ」での講演</p> <p>平成30年10月 おかざき未来“夢”プロジェクト 子ども子育てラウンドテーブルでの研究説明</p> <p>平成30年11月 「とよた子育て総合支援センターリニューアルオープンセレモニー」並びに本学と豊田市との包括連携協定の締結式でのグッズ配布</p> <p>平成30年12月 キービジュアル・ロゴマーク等の発表</p> <p>平成30年12月 「子ども教育フォーラムシンポジウム」での講演</p> <p>平成31年13月 学術雑誌「子ども好適空間研究」発行・配布</p> <p>令和 元年12月 「第1回子ども好適空間シンポジウム」開催</p> <p>令和 2年 2月 子ども空間安全チェックリスト配布</p> <p>本事業の取り組みについて、様々なステークホルダーに対して、Web やグッズを用いて広報・普及活動を行った。上記の活動を通じて「子どもの空間といえば岡崎女子短期大学」との認知が高まりつつあるため、今後は子ども好適空間研究所を設立し、更に認知度を高めていく。</p> <p>本事業の経費については、研究活動で使用した機器・用品・消耗品等に使用した。広報活動については、情報発信のためのWeb 開設費用、シンポジウムの開催、ロゴマークやキービジュアル、リーフレット、PR ウォーター等に使用した。</p>
<p style="text-align: center;">今後の事業成果の活用・展開</p>	<p>「私立大学研究ブランディング事業」の助成が当初予定の5年から3年へと短縮され、事業計画設計時に構想した内容の全てを達成することは難しくなったが、2年5カ月の取り組みから得られた成果について、事業計画時に挙げた「4つの成果」を元に展開や課題を記述する。</p>

**今後の事業成果の
活用・展開**

成果 1. 「保育空間を自ら改善、デザインできる保育者、育児空間を企画、販売できるビジネスパーソンの育成」

令和元年度には計画よりも1年前倒しで、現代ビジネス学科において「好適空間論」の授業を開講し、事業の研究成果を学生に対して還元することができた。また、学生活動「hygge ミツケ隊」の組織やオープンキャンパスでの告知、リーフレットの配布等を通じて、幼児教育学科の学生に対しても本事業内容はある程度浸透している。今後は、幼児教育学科においても、本事業による研究成果を還元した授業を実施し、学内認定資格を取得できるよう検討中である。これにより本学のブランド価値として全学生に対して特色ある教育を展開することが可能となる。

成果 2. 「子ども空間デザイン教育と、効果測定法開発」

「好適空間論」の授業が令和元年度に開講され、その次の段階として求められるものはその効果の測定である。「子ども好適空間研究」第2号内の「医療における『子ども好適空間』構築の重要性 第2報」内において授業の一部について検証が試みられており、今後さらに授業内容の検証を進め開講形態や内容についての改善を行っていく。

成果 3. 「保育環境の実態、保育従事者の環境に対する意識実態データの蓄積」

平成30年度～令和元年度の複数の研究において、保育環境の実態調査や、保育従事者の環境に対する意識実態データの調査が実施されている。「子ども好適空間研究」第2号内の「子ども空間安全チェックリストの作成と有効性」の研究成果を基に、「子ども空間安全チェックリスト」を作成し、関係各所に配布を行った。今後は実際の現場におけるチェックリストの活用事例についても、検証を行う予定である。さらに、現在までに蓄積された様々なデータを研究や教育に活用できるよう、データを研究者相互で参照し、活用できるアーカイブ体制を構築する。

成果 4. 「国内外の子ども好適空間事例の蓄積と発信」

令和元年度末までに行なった事例調査により、国内外3,000点以上の画像の蓄積が行われており、事例の収集についてはある程度の成果が得られている。また、子ども好適空間に関連する図書についても購入を進め、学内に保管がなされている。今後は、これまでに収集した事例の公開方法について検討し、公開するためのシステム構築を行う。

また、助成期間が終了し、大規模な事例調査を継続することは困難となるが、教職員個人の個人研究や学会におけるエクスカッション等から得られた事例を集約することにより、好適空間事例の蓄積活動を継続していく。

今後は、「子ども好適空間研究拠点整備事業」による研究の成果を、3次元上の「子ども好適空間研究所」として具現化していく。各研究プロジェクトの研究成果を総合した空間が具体的に実現することにより、各研究プロジェクトの成果が視覚化され「子ども好適空間」の理念を体現することとなる。そのため、令和2年10月末開設を目標に、学内に「子ども好適空間研究所」の設置を進めていく。